

## 令和2年度第1回秋田県環境教育等推進協議会 議事概要

### 1 日 時

令和2年7月9日(木) 午後1時30分～午後3時

### 2 場 所

秋田県議会棟 2階 特別会議室

### 3 出席者

#### ○委員(敬称略)

佐藤玲子、大塚久隆、部谷正樹、川田貴之、木口倫、石黒直樹、川越政美、  
福岡真理子、後藤千春、佐藤央章(中山恭幸委員代理)、川村之聡 以上11名

#### ○事務局

生活環境部長 鎌田雅人 温暖化対策課長 中田美英子 ほか4名

### 4 座長選出

委員の互選により、木口委員が座長に選出された。

### 5 報告事項

- (1) 秋田県環境教育等推進協議会設置要綱の改正について  
第2次秋田県環境教育等に関する行動計画の策定に向けて、所要の改正を行ったことを報告した。

### 6 協議事項

- (1) 環境教育・環境学習に関する関係各課室の施策一覧  
令和元年度事業等実施報告及び令和2年度事業  
意見や質疑等なし。
- (2) 第2次秋田県環境教育等に関する行動計画の策定について
  - ①策定の方向性
  - ②策定スケジュール(予定)
  - 木口座長  
行動計画の策定の方向性のうち、「体験の機会の場」の積極的な活用については、認定を増やすということよりも、活用の仕方や仕掛けが重要と考える。公的施設についても、計画の中で、どのように活用していくかが重要と考える。
  - 事務局  
「体験の機会の場」の認定については、公的施設ではなく、民間の施設で環境教育に活用できる施設が認定されていると認識している。公的施設は、教育を目的として設置された施設なので、引き続き活用していく。  
どのように使っていくかは重要である。施設を生かした形で活用したい。
  - 後藤委員  
「体験の機会の場」は、箱物(ハード)に限られるのか。環境教育に関する人材は沢山いるが、その人材を活用するという視点はどのようなか。
  - 事務局  
施設に限らず地域にある資源を活用するという意味では、人材も含まれると思う。
  - 後藤委員  
福島県の認定事例をみると、人が認定されているように見受けられるので、秋田県でも様々な人材や団体を体験の機会の場として活用できるのではないかと考えた。

○木口座長

後藤委員の意見は重要だと考える。箱物も大事だが、それを運用する人も大事なので、そのような考えが秋田県の行動計画に反映されれば、非常に良いものになると考える。

○川田委員

教育庁生涯学習課は、体験学習施設を所管していることから、少年自然の家の状況について情報提供したい。コロナ禍のため、子供たちの体験の機会が著しく失われている。4、5月は臨時に、施設での子供たちの受け入れを中止した。出前講座の申し込みがあった場合は、新型コロナウイルス感染症防止対策が講じられていることを確認した上で、職員が外部に赴いて学習プログラムを提供した。国や県の方針を踏まえ、6月からは少年自然の家の日帰り利用を再開することとした。施設の利用に当たっては、密にならないように職員が工夫しながら学習プログラムを実施している状況である。宿泊体験や自然環境を思いっきり楽しむ野外活動を通じた学習が、自然の家の本来のあり方なので、現在、そうしたことができず利用者に満足を提供できないことに、負い目を感じている。今後は、国や他県の状況を踏まえながら、消毒体制をしっかりと整えた上で、9月からは1泊2日での利用を再開したいと考えている。このコロナ禍にあっては、体験の機会の提供について、施設職員も手探りで物事を進めざるを得ない状況であることにご理解いただきたい。

○木口座長

仮にコロナの影響が続くようであれば、それに応じた行動計画になるのか。

○事務局

基本的には理想を計画に落とし込むこととなる。現時点で、コロナの影響が全く無くなることは想像できないので、このことも少しは意識した行動計画になるのではと思っている。

○木口座長

事務局でも非常に悩むこととは思うが、計画策定に当たっては、まずは委員の皆様から忌憚のない意見をいただき、コロナの影響については、その後の議論としていきたい。

○福岡委員

現行動計画は、環境教育に携わる県内の全ての教師が認識されているのか疑問である。現場で環境教育活動を行う際に、先生の理解度に温度差を感じており、これが事業の成果に影響を及ぼすように思う。

○事務局

基本的には、全ての市町村の教育委員会、小中学校、県立高校等に配布されていたはずである。ただし、各学校に冊子1部ずつとなると、実際に環境教育を実施されている先生に届いているかについては、疑義がある。

○福岡委員

先の話になるが、今回策定する行動計画については、現場で環境教育を実施する先生にしっかり届くようにしていただきたい。

先日、大仙市の教育委員会の先生から、西仙北小学校が、今年の3月に「エネルギー教育賞」を受賞したという話を伺った。受賞した同校の取組は、小学校の理科室につながる廊下を「サイエンスストリート」という名称にして、そこに色々な実験器具を置いて体験の場をしているというものである。コロナ禍にあっては、このような取組が参考になるのではないかと思い情報提供させていただいた。このような取組事例を行動計画に記載し、子供たちに色々なアプローチができることを示してみたい。

○事務局

第2次の行動計画については、各学校で環境教育を実施している先生に届くよう、計画の送付や情報提供について工夫していきたい。

西仙北小学校の事例紹介があったが、これからコロナ以外にも様々なことが起こりうる可能性があるので、それらに対して柔軟に対応していくことが求められると考える。同校の取組については、例えば、トピックスとして紹介できるのではないかと思う。

○川越委員

全国の「体験の機会の場」の認定状況を見ると民間の施設が多いように見受けられ、これが国の方針だと理解できる。今般の計画策定の議論では、国の方針を踏まえ、民間の「体験の機会の場」を増やし、活用を図っていくのか。それとも、公の施設の活用を図っていくのか。事務局としては、どのように考えているのか。

環境省の提供している「体験の機会の場」の資料によると、認定された事業者の意見として、社員のモチベーションが上がった等の記載があった。このことから、一般的に環境教育というと児童生徒を対象としたものをイメージするが、社会人も対象に含めて大きな視点で環境教育を捉えるべきと考えるが、事務局はどのように考えているのか。

○事務局

「体験の機会の場」については、基本的に地域に既にある教育資源を活用しようという方向性であり、新たに体験の機会の場を認定することは、施設利用の安全性の面などから、簡単にできるものではないと考えている。

民間施設の利用という観点では、県が制作した「あきた環境学習応援隊」という冊子で、施設見学や出前講座等を実施している団体や企業等を紹介している。また、美の国あきたネットでは動画による施設紹介も行っているので、このような仕組みや素材も活用できるのではないかと考えている。

現在、県では生涯学習という方向性であることから、子供に限らず幾つになっても学べるようにしたい。その中でも、やはり子供への環境教育は非常に重要なので、そのことは外さないようにしたい。

○石黒委員

「あきた環境学習応援隊」の話に及んだので、応援隊である当社の取組について紹介したい。今年度は、コロナ禍のため、見学等の受け入れを行っていないし、また、いつから受け入れできるかを公表できるような段階に残念ながらない。

令和元年度から応援隊として登録しており、秋田市内の中学校に出前講座に行ったり、ショールームの中でエコクッキングなどの料理教室をしたり、工場の施設見学などを実施しているが、登録の前後で申込者数が約2倍になった。申込者の内訳について、大館市や大仙市など秋田市以外からの申し込みも増えたとし、これまで小中学校が主なものであったが、大学や町内会からの申し込みも増えた。講師となる社員は、一般人向けの説明と小学生向けの説明について、悩みながら実施している状況である。応援隊として登録した成果は、出てきているように感じている。

○佐藤代理

今実施している事業は子供向けが多いと認識しているが、例えば、県外の小中学生を受け入れることが可能なものがあるのか。

質問の背景には、コロナ禍にあって東北地方に修学旅行に来るという事例が増えている。東北に来る目的として、自然環境に着目して、子供たちに何か学ばせたいと考えているのではないかと考えている。そうした場合に、本県に来る学校が県で実施している事業を活用できれば、自校に戻られた時に、学習の続きとして、環境の繋がりを基に、秋田県のどこかの学校と交流してみたいということが生まれ、環境教育というものが秋田県に返ってくるのではないかと考えた。

○事務局

お話の趣旨は、例えば、少年自然の家での受け入れのことだと考えるが、県内はどのような状況でしょうか。

○川田委員

少年自然の家では、通常、他県からの受け入れも行っている。6月からは、県内の団体に限り、日帰りでの利用を再開したという状況である。8月からは県外の団体の利用も受け入れる予定であるが、日帰りという制限がある。実際に仙台市の団体からは農業体験をさせたいので、自然の家を活用できないのかという相談があった。9月からは、県外の団体も宿泊できるようになるが、県外から修学旅行の代替として利用されることも想定しており、十分な学習プログラムの提供と、しっかりとしたコロナ対策をする必要を感じている。

○木口座長

行動計画に、そのようなことを盛り込んでもいいと考える。なぜなら、秋田県は第2次環境基本計画において「環境先進県」を謳っており、他県の受け入れもしっかり行い、秋田県の取組を広めていくこともあってしかるべきと考えるからである。

○部谷委員

私は、昨年、「地球子どもサミット」という会に参加した。テーマが「僕らの地球。海洋プラスチックごみについて考えよう！」であった。その中で、非常に印象に残ったのが、ボツワナの子供が「プラスチックごみを見たことがない。」という発言をしたことであり、秋田県の環境が非常に豊かなことを再確認することができた。

12年程前に教育庁の文化財保護室に所属し、天然記念物の担当をしていたが、その当時、竿燈大通りをニホンカモシカが走ってどうしたらいいかという相談があったが、おそらく、今はそのような相談は少ないのではないかと思う。現在、話題にのぼるツキノワグマ、イノシシ、ニホンジカについては、当時、話題になったことが無かった。環境に関しては、どの程度正確な研究データがあり、評価がなされているかが重要であると考えている。私は、大人の作為がないように、できるだけ子供たちに、それを正確に伝えたいと日頃から考えている。このままだと、自然（ツキノワグマなど）イコール触ってはいけないもの（危険なもの）になってしまうことを危惧している。全体的に正しく評価して、子供たちに知ってもらうことが重要である。タケノコやキノコ、山菜採り、溪流釣りは秋田の文化だと考えている。これら子供たちが楽しめるような、行動計画にできたらいいなと考えている。

○佐藤委員

先ほど、体験の機会の場の話の際に、県有施設の名前が挙げたが、これらについては、沢山利用させてもらったという実感がある一方で、他に色々な施設がないかなということについて、知りたかった。現場にいと、子供たちに色々な体験をさせたいという思いが強くなるので、そういった時に環境学習応援隊のハンドブックのようなものを知っていればよかった。

専門的な考え方については、教師一人の力では伝えきれないところがあるので、身近な専門家に教えてもらうのが、子供たちの知識の入り方も違うし、体験しながらだと心にも残るので、このような情報があった方がいいと感じた。また、先ほど福岡委員からもお話があったが、情報が現場の担当まで届いていないということを感じた。折角作った資料なので、現場の担当までしっかり伝わればいいのではないかと思う。

○事務局

環境学習応援隊については、冊子とDVDを県内全ての小中学校に配布している。よくできている資料なので、色々な人にもっと見てもらいたいと思っている。学校には、色々な所から様々な文書が届くことから、全てをしっかりと確認することは難しいかもしれないが、見てもらえるように一手間かける工夫をしていきたい。

○木口座長

情報の周知については、非常に重要と考える。提供している情報を、子供たちが自発的に見られる環境にあるのか、秋田県の学校におけるインターネット環境がどの程度普及しているのか。コロナ禍にあって、ネットワーク環境が重要とされてい

るので、そのようなところにも予算が措置され、子供たちが教材を自発的に見られる環境になればいいと思う。

○川村委員

先ほど、コロナの影響についての議論があったが、行動計画については大きな視点・理想で議論していただきたいと考える。この計画については、県の環境基本計画と整合をとることとしており、同計画は作成の準備に入っている段階である。そちらの進捗についても、お知らせしながら議論していきたい。

○木口座長

策定スケジュールに、8月の第2回協議会で、「現行動計画の評価」との記載があるが、各委員が評価し意見をもらうに当たっては、現在の計画の実施状況がどうであったか知る必要がある。このことから、平成23年度からどのような事業を実施してきたのかなどについて、事務局として示していただきたい。

○福岡委員

本日は、策定の方向性が議題になっており、資料によると計画期間が10年間であり、SDGsのゴールの年と重なっている。SDGsのゴールには、環境関連のゴールがかなりの数あるので、現行動計画の11ページ「発達の段階の応じた施策」の共通の部分にSDGsについて盛り込むことをご検討いただきたい。地域のことも大切だが、海洋問題や気候変動などは世界と繋がっている。

また、現行動計画の18ページにESDが記載されているが、学習指導要領が改定され、同要領のはじめの部分にESDのことが全ての教科に共通して記載されていると記憶している。このことについても、新たな行動計画の前段の盛り込むことについて検討いただきたい。

○事務局

SDGsについては、今年度見直しする秋田県環境基本計画に盛り込まれるので、同計画の進捗と整合をとりながら、新たな行動計画にも盛り込んでいく予定である。